

# 川崎 むつを（かわさき・むつを）

## 1、プロフィール

大正 13 年、口語歌を作り歌誌「オリオン」などを刊行。日本口語歌推進者の1人。鳴海要吉の継承者として「波止場」を主宰。青森啄木会会長等を歴任。

<生没>

1906(明治 39)10 月3日 ~2005(平成 17)9月8日

<代表作>

歌集『カムサッカの歌』『出帆旗』『流氷』

原三千代との合同歌文集『波止場』

<青森との関わり>

東津軽郡新城村(現青森市)に生まれた。

## 2、作家解説

大正 13 年に、歌誌「牧歌」をガリ版刷で創刊。新城の黎明草舎で淡谷悠蔵の指導を受け、ここで見た鳴海うらぶる(要吉)のローマ字詩集『TUTI NI KAERE』に衝撃を受け、口語歌に改めた。14 年に「牧歌」を「オリオン」と改題、これを主宰した。県内初めての口語歌誌であった。昭和5年東奥日報口語歌選者、11 年口語歌誌「出帆旗」創刊、13 年渡満、満州新短歌協会を作り「短歌開拓」を創刊。新日本歌人協会および青森県啄木会を結成、23 年県文化振興会議の結成に参加。31 年「青森文学」創刊。34 年青森市文化団体協議会を結成、事務局長。60 年鳴海要吉著『Usio no oto』を日本語訳で刊行。青森市短歌連盟顧問。県歌人懇話会理事。青森文学会代表。青森啄木会会長として、啄木の歌碑を県内に3基建立、毎年啄木会を行うなど日本口語歌推進者の1人であり、鳴海要吉の継承者として「波止場」を主宰。新日本文学界青森支部長として、県内外の文化の向上、発展に貢献した。

代表作(歌集『出帆旗』より)

南方十字星の輝く海で 荷に積んだ時計も鳴らう 日本を恋ふて むつを

君が想ひ 君が果さざりし大業は いま我が胸に火の如く燃ゆ むつを

青森市民褒賞(昭和 47 年)、新日本歌人協会功労者賞(昭和 55 年)、青森県歌人功労賞(昭和 56 年)、青森県文化振興会議表彰(平成元年)、県芸術文化振興功労賞(平成5年)を受賞。

### 3、資料紹介

#### ○歌集『出帆旗』

図書

1935(昭和 10)年 12 月 31 日

190mm×154mm

第二歌集。昭和2年から6年までの口語歌 351 首を収める。竹内俊吉の序文、川崎文男の文、大川澄夫の跋文、斉藤英太郎の装幀、花岡謙二の序歌、木下茂の木版画、と至れりつくせりの歌集で、叙情的な、みずみずしい、青春の歌がその内容である。